

## 令和2年度まちづくり市民活動補助金事業

団体名	「版画のあるまち」企画懇談会
事業名	「版画のあるまち」活動事業

### ◇部門

課題解決型まちづくり部門

### ◇事業の目的

恵那市には、2002年に建設された「中山道広重美術館」があり、「木曾街道六十九次」の浮世絵などを展示しています。また、2004年から「こども版画コンクール」を実施し17回を迎えています。

このコンクールに保育園・幼稚園、小学校、中学校から毎年3000点近くの応募があります。また1952年から学校教育に版画を取り入れ、恵那の版画文化の基礎を作ってきました。当時、日本を代表する版画家平塚運一は恵那の版画教育にエールを送っています。

「こども版画コンクール」のコンセプトは、「恵那で育った人は、一度は版画を作り、版画に親しむことができる」ことでした。

しかし、残念なことに、「こども版画コンクール」で版画制作を実践した子ども達は大人になっていく中で年賀状、暑中見舞い、版画作品の制作など生活に根付かせることができませんでした。

以前、恵那のまちづくりのためにデザイン委員会ができ、「版画のあるまち」への提言がだされましたが、活かされてきませんでした。

恵那の町なかには中山道が通り、中山道広重美術館があります。町なかに街道や美術館がある町は少なく、歴史的な行在所や枳形も残っています。恵那ほど「版画がにありまち」はないと思います。

「版画のあるまち」を実現するためには、版画の雰囲気を作ることが大事であり、そのためには、故郷を知ってもらうための名所案内などを版画で作成して設置していくことが大事であると思います。

町なか市、みのりみのじまつりなどで版画制作のワークショップを開催して版画の普及に努めていき恵那を「版画のあるまち」にして最終的に文化・芸術があふれるまちにするものです。

## ◇事業の内容

### 1 「分水嶺」 版画看板設置

三郷町野井地区は庄内川の源流にあたり、野井地区に木曾川水系と庄内川水系との分水嶺があり、古くから「わかれ田」と言われました。西行法師の歌「一つ田の水もわかるる西東月日の夢をうつすあけ方」の中に分水嶺が詠われています。そうした伝統を踏まえて分水嶺の看板を版画で制作して設置をした。

#### ②西行法師の歌の版画文字での看板設置

西行法師が詠った「一つ田の水もわかるる西東月日の夢をうつすあけ方」を版画で制作した看板の一つを分水嶺のあった所に横に設置した。

分水嶺の近くには西行法師が住んでいたと言われている松林庵がある。松林庵には跡地の記碑がありその横に、もう一つ西行法師の「わかれ田」の歌の看板を設置する。この看板は三郷町の観光名所となり町おこしの一助となるものである。

分水嶺とわかれ歌の看板の除幕式を3月15日に実施した。

### 2 ワークショップの開催

コロナ禍のなか夏休みが少なくなり恵那市として親子でできる行事がないかとの要請があり8月9日に「親子で楽しむ版画教室」を中山道広重美術館で開催した。11月22日にはみさと愛の会の「お芋まつり」で「芋版画教室」を開催した。12月5日には恵那まちなか市で「だれでもできる版画教室」を開催した。

恵那みのじみのり祭りは中止となったが、恵那エールで「楽しい版画教室」を12月5日、3月28日に開催した。元絵を小さな版木に写して彫って刷って、その作品を額こいれて持ち帰ってもらった。参加者には大変喜んでもらった。このことで身近に版画制作を感じてもらい版画の雰囲気を感じ出すことができた。

なお、当初予定していた恵那地方郷土の版画家展の開催については、「恵那のゆかりの音楽家によるコンサート」が、令和3年の6月に開催することになり、令和3年度の事業となった。

## ◇事業の効果

この事業を実施することにより、版画の普及に大きな効果があった。

分水嶺、西行法師のわかれ歌の看板の設置は、地域に歴史的な伝統遺産があることを地域の住民に知ってもらうことができ、子ども達が郷土愛を持つことができる素材を提供することができた。

分水嶺の看板は木曾川水系と庄内川水系の分水嶺があることを示しこの地域が自然豊かな地域であることを版画を使って表すことができた。西行法師のわかれ歌の看板も版画で作ることにより、この地域に西行法師が住んで、歌を詠ったという伝統文化の継承に役立ったと思う。

「夏休みの中山道美術館」「まちなか市」「恵那エール」でのワークショップの開催は身近な日常で版画ができるということを普及することで効果があったと思う。恵那を「版画のあるまち」にするためには、こうした地道な活動が必要である。

## ◇活動経費

・事業総費	403,417円
・補助金	400,000円